

植民地朝鮮における
アメリカ南部メソジスト監督教会
海外女性伝道協会による女子教育

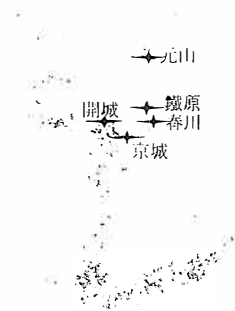
朴 宣 美

植民地朝鮮におけるアメリカ南部メソジスト監督教会 海外女性伝道協会による女子教育

朴 宣 美

はじめに

1878年に結成されたアメリカ南部メソジスト監督教会海外女性伝道協会（Woman's Foreign Missionary Society, Methodist Episcopal Church, South、以下、略してWFMS-Sと表記）¹は、中国（1878年）と日本（1889年）に遅れて、1897年に朝鮮にキャンベル（J. P. Campbell）を派遣した。同年に漢城（後に京城へ）にステーションを開いて以来、WFMS-Sは、開城（1899年）、元山（1901年）、春川（1911年頃）、鐵原（1920年頃）へと、未婚の女性宣教師を送り続け、女子教育、医療活動、婦女・子どもへの伝道活動などを行った²。



<図1>
アメリカ南部メソジスト
監督教会海外女性伝道協
会の朝鮮宣教地域

本研究は、WFMS-Sによって朝鮮で実施された女子教育の実態について明らかにするものである。当時、朝鮮における6大プロテスタント教派³によって実施された女子教育や、朝鮮総督府による女子教育（中等教育を中心に）の状況を検討しつつ、WFMS-Sによる女子教育の内実を分析する。また、本研究では、WFMS-S女性宣教師の女子教育に関する考えはもとより、彼女たちの学歴などを調査し、朝鮮における女子教育の普及は、アメリカにおける女子教育の発展といかに結びついているものかを論じる。

朝鮮におけるWFMS-Sの女子教育活動については、あまり研究されてこなかった。WFMS-Sの活動を通史的に分析した李徳周^{イ・ドクジュ}の研究の中で⁴、WFMS-Sが開設した女子学校について取り上げられた。しかし、そこでWFMS-Sによる女子教育活動の実態や意味が十分に論じられなかった。

本研究では、WFMS-Sが刊行した機関紙である *Woman's Missionary Advocate* (1880-1910) とその後身である *The Missionary Voice* (1911-1932) を用いて分析を行う。また、WFMS-Sの年次報告書 (*Annual Report of the Woman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church,*

South, 1897-1909; *Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South*, 1910-1937. 欠巻あり) や、ユニテッドメソジスト教会 (the United Methodist Church) のアーカイブ & ヒストリー⁵ に所蔵されている宣教師たちの個人ファイル (Microfilm Edition of the Mission Biographical Reference files, 1880s-1969. ファイルには書信、履歴書、報告書、日記、雑誌記事などが含まれている)⁶、朝鮮総督府の教育関係資料なども用いて考察する。

1. 朝鮮におけるプロテスタント教派による女子教育

(1) 女子初等教育の状況

アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会 (Woman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church) は、1885年にスクラントン (M. F. Scranton) を朝鮮に派遣し、彼女によって翌年に朝鮮における最初の女子学校 (梨花学堂) が漢城に開設された。それ以降、欧米のプロテスタント教派によって朝鮮へ送り出された女性宣教師たちは、それぞれの宣教地域で次々に女子教育を始めた⁷。

アメリカ北部長老派教会海外女性伝道協会 (Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church, U.S.A.) のエラーズ (A. J. Ellers, 1886年に派遣) は、1887年に漢城で貞洞^{ジョン}女学堂を開設した。1891年にオーストラリア・ヴィクトリア長老派教会 (the Presbyterian Church of Victoria, Australia、通称、オーストラリア長老派教会) のヴィクトリア長老派教会女性宣教師連合会 (Presbyterian Women's Missionary Union of Victoria) から送り出された3人の女性宣教師 (B. Menzies, J. Perry, M. Fawcett) は、1893年に釜山^{フサン}で日新女学校^{イルシン}を設置した。1898年にWFMS-Sのキャンベルによって漢城でカロライナ学堂が開かれた。カナダ長老派教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada) は、1899年にフット (E. Foote) を朝鮮に送り、彼女は、同年、元山で女子教育を始めた (後に、進誠女学校)。最後に、アメリカ南部長老派教会海外伝道局 (The Executive Committee of Foreign Missions, Presbyterian Church, U.S.)⁸ のテイト (M. S. Tate, 1892年に派遣) は、1902年に全州^{ジョンジョウ}で紀全女学校^{キジョン}を開いた。このように、1886年から1902年にかけて、欧米のプロテスタント教派の女性宣教師たちは、朝鮮で女子教育を開始したのである。

こうしてプロテスタント教派は19世紀末から植民地期を通して女子教育の一端を担ったが、その実施状況について朝鮮総督府学務局の調査から見てみよう。当局は1915年に朝鮮におけるキリスト教系 (プロテスタントやカトリックなどすべての教派を含む) の初等・中等教育機関を調査した。その中から女子初等教育機関の地域的分布・学校数・生徒数・教師数をまとめると、<表1>の通りである。

女子初等教育機関は全国的に開設されているものの、京城府・京畿道の他、キリスト教がいち

早く浸透した朝鮮半島の北部（とりわけ平安南道や黄海道）に多く設置され、女子生徒数も多い。これらの地域はアメリカ北部長老派教会やアメリカ北部および南部メソジスト監督教会が主に活動したところで、女子教育の普及が進んだ。

1915年現在、キリスト教系の女子初等教育機関（女子校と共学を合わせて101校）に在籍していた女子生徒は5,286人で、同年度に官公立普通学校に通っていた女子生徒数（合計5,976人、〈表2〉を参照）に比肩する規模である。しかし、キリスト教系の初等教育機関は、教会に付設されたものが多く、官公立普通学校に比べ施設や設備が不十分であり、資格を持つ教師も不足した。

〈表1〉 朝鮮におけるキリスト教系女子初等教育の状況（1915年度）

地域	学校数			教師数					生徒数
	女子校	共学	小計	朝鮮男子	日本男子	朝鮮女子	日本女子	小計	
京城府	6	2	8	21	-	20	-	41	649
京畿道	14	4	18	44	-	45	2	91	1,403
忠清北道	1	-	1	1	-	1	-	2	32
忠清南道	2	3	5	21	1	1	-	23	165
全羅北道	-	2	2	8	-	-	-	8	115
全羅南道	1	-	1	1	-	3	-	4	179
慶尚北道	1	1	2	8	-	3	1	12	203
慶尚南道	-	1	1	3	-	-	-	3	223
黄海道	5	18	23	63	-	10	-	73	549
平安北道	1	11	12	31	-	6	-	37	339
平安南道	6	16	22	57	-	25	1	83	1,033
江原道	3	1	4	8	-	3	-	11	104
咸鏡北道	-	1	1	3	-	1	-	4	65
咸鏡南道	1	-	1	3	-	1	-	4	227
合計	41	60	101	272	1	119	4	396	5,286

注1：プロテスタントやカトリックなど、当時、朝鮮で女子教育を実施したすべてのキリスト教派を含む。

注2：高等科（中等教育）と初等科が設置されているものの、初等科にのみ在籍者がいる場合、初等教育機関として見なす。しかし、両方に在籍者がいる場合、中等教育機関として集計し、教師数も中等教育機関に含む。

出典：朝鮮総督府内務部学務局『朝鮮人教育私立学校統計要覧』1916年（渡部学・阿部洋編『日本植民地教育政策史料集成（朝鮮編）』第52巻、龍溪書舎、1989年に所収）。

〈表2〉 朝鮮における初等・中等教育機関における女子生徒の状況（1915年度）

教育機関	生徒数	
	初等	官公立普通学校
私立（一般）普通学校		398
中等	公・私立（一般） 女子高等普通学校	477
各種学校 （初・中等レベル）	一般	1,642
	宗教系*	6,413

*非キリスト教系学校も含まれているが、ほとんどはキリスト教系学校である。

出典：朝鮮総督府学務局『朝鮮諸学校一覽』1918年（渡部学・阿部洋編、前掲書、第53巻に所収）。

1920年代以降、朝鮮総督府の初等教育政策により、設備された公立普通学校が普及し、就学率も改善されていくなか、朝鮮人はキリスト教系学校より、公立学校への就学を選ぶ傾向にあった。それで宣教師たちは教育を通して及ぼす朝鮮人・朝鮮社会に対する自分たちの影響力の低下を危惧した。しかし、1940年代まで初等教育機関への女子児童の就学率は30%程度までしか上がらない中⁹、植民地期を通して女子初等教育を担ったキリスト教系の役割は大きい。

(2) 女子中等教育の状況

次に、キリスト教系の女子中等教育について検討しよう。1915年現在、忠清南北道と江原道には設置されず、京城府に次いで北部には平安南道、南部には慶尚南道に多く開設された。合計30校に約1,000人の女子生徒が在籍した（<表3>を参照）。上記の<表2>から分かるように、同年、公私立（一般）の女子中等学校（女子高等普通学校）に在籍した生徒は477人であり、それより2倍以上の女子生徒はキリスト教系の学校で学んだ。

<表3> 朝鮮におけるキリスト教系女子中等教育の状況（1915年度）

地域	学校数			教師数					生徒数
	女子校	共学	小計	朝鮮男子	日本男子	朝鮮女子	日本女子	小計	
京城府	3	-	3	11	-	23	2	36	290
京畿道	1	-	1	5	-	4	1	10	93
忠清北道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
忠清南道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全羅北道	2	-	2	4	-	8	1	13	35
全羅南道	2	-	2	3	-	10	2	15	44
慶尚北道	1	-	1	3	-	2	1	6	37
慶尚南道	2	2	4	7	-	14	-	21	172
黄海道	1	1	2	9	-	5	1	15	39
平安北道	1	4	5	20	-	8	-	28	32
平安南道	4	2	6	12	-	13	2	27	193
江原道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咸鏡北道	1	-	1	2	-	2	-	4	13
咸鏡南道	3	-	3	6	-	9	1	16	31
合計	21	9	30	82	-	98	11	191	979

注および出典：<表1>と同じ。

また、次の<表4>から分かるように、1937年度に女子中等教育機関（公私立女子高等普通学校および中等レベルの各種学校）に在籍した女子生徒は9,269人である。そのうち、キリスト教系の学校（私立女子高等普通学校および各種学校）に通う女子生徒は3,226人（34.8%）で一番多い。次に多いのは、私立学校（非キリスト教系の女子高等普通学校および各種学校）に通う女子生徒である（3,096人、33.4%）。公立女子高等普通学校に通う女子生徒の割合は一番低く31.8%

<表4> 朝鮮における女子中等教育の状況（1937年度）

教育機関	学校数	生徒数	教師数						
			朝・男	日・男	朝・女	日・女	外国人	小計	
公立女高普	11	2,947	67	70	34	17	-	188	
私立女高普	キリスト教系	7	1,462	54	5	34	9	11	113
	その他	3	2,738	21	11	20	9	-	61
各種学校	キリスト教系*	13	1,764	67	8	34	9	16	134
	その他	7	358	6	16	16	27	-	65
合計	41	9,269	215	110	138	71	27	561	

*13校のうち、4校は共学で、416人の女子生徒が在籍した。

出典：朝鮮総督府学務局『朝鮮諸学校一覽』1938年（渡部学・阿部洋編、前掲書、第60巻に所収）。

(2,947人)である。

要するに、朝鮮においてキリスト教系は、それぞれの宣教地域で女子中等教育をいち早く開始し、それらの学校は下記に述べるように英語、音楽、家政、体育など、ミッションスクールならではの教えで名門私立女子学校としての確固たる地位を築いた。キリスト教系は植民地期を通して女子中等教育の普及に大きな役割を果たしたのだ。

つづいて、朝鮮総督府の1919年度の調査を用いて、キリスト教系により実施された女子教育の実態を6大プロテスタント教派別に見てみよう（<表5>を参照）。初等と中等の両方においてアメリカ北部長老派教会により開設された女子学校（初中等合わせて78校）が一番多く、生徒数も多い（合わせて2,734人）。次いでアメリカ北部メソジスト監督教会の女子学校（合わせて55校、2,511人）とアメリカ南部メソジスト監督教会の女子学校（合わせて14校、836人）の順に並ぶ。しかし、朝鮮で女子高等教育を実施したのはアメリカ北部メソジスト監督教会の女性宣教師であり、アメリカ南部メソジスト監督教会の女性宣教師もそれに協力した¹⁰。

<表5> 朝鮮における6大プロテスタント教派による女子教育実施の状況（1919年度）

教派		米国北監督	米国南監督	米国北長老	米国南長老	カナダ長老	臺灣長老	合計
初等教育	学校数	54	12	75	45	24	3	213
	教師数	121	42	92	49	36	15	355
	生徒数	2,416	697	2,498	408	678	330	7,027
中等教育	学校数	1	2	3	1	3	1	11
	教師数	15	15	20	18	5	1	74
	生徒数	95	139	236	79	20	9	578

出典：朝鮮総督府学務局『朝鮮の統治と基督教』1921年（渡部学・阿部洋編、前掲書、第16巻に所収）。

2. 朝鮮における WFMS-S による女子教育

(1) 全体的な状況

前章で明らかにしたように、朝鮮においてキリスト教系は国家に先んじて女子教育を開始し、特に女子中等教育の普及に大きく貢献した。とりわけ WFMS-S は、京城府・京畿道（開城）、咸鏡南道（元山）、江原道（春川、鐵原）で女子教育を行い、その規模はプロテスタント教派による女子教育の中で相当の比重を占めた。

WFMS-S の年次報告書（1897-1937）には、女性宣教師を派遣した世界各国（ブラジル、中国、コンゴ、キューバ、日本、朝鮮、メキシコ、ポーランド）における教育事業などが記述されている。ここでは、朝鮮における教育事業の規模について最も充実に報告されている 1930 年度版を用いて WFMS-S の女子教育全般について述べる。ただし、不十分な記載を補うため、京城の培花女子高等普通学校と培花女子普通学校、鐵原のディスクールは 1932 年度版を、京城のディスクールは 1929 年度版を用いる。全地域のディスクールに関しては、学校数の記載がないため、生徒数のみ記す。

<表 6>から分かるように、WFMS-S によって 1898 年から開始された女子教育は、中等教育機関 3 校（培花女子高等普通学校、好壽敦女子高等普通学校、樓氏女子高等普通学校、すべて修業年限 4 年）と初等教育機関 4 校（修業年限 6 年の培花女子普通学校、好壽敦女子普通学校、フランシス・ヒッチ・スクール、修業年限 4 年のメアリー・ヘルム・スクール¹¹）へと拡大された。それに初等教育を行うディスクール（修業年限 4 年で、多くは教会に付設される）が、京城、開城、元山、春川、鐵原にそれぞれ開設された。これらの教育機関で教えた朝鮮人教師は 197 人（中等機関に 56 人、初等機関に 141 人、性別数は不明）で、女子生徒数は中等教育機関に 845 人、初等教育機関に 4,792 人に達した。

WFMS-S の宣教地域である江原道は、比較的初等教育の普及が遅れた地域であった。WFMS-S は、江原道で女子中等教育機関は開設せず、ディスクールをのみ設置したが、そのディスクールに 1,548 人の女子生徒が在籍した。1931 年度現在、江原道の公立普通学校（修業年限 6 年）に在籍した女子生徒は 4,039 人、私立普通学校（修業年限 6 年）に在籍した女子生徒は 91 人である¹²。この地域において初等教育を受ける女子生徒の約 3 割は WFMS-S の初等教育機関で学んだのである。

WFMS-S の初等教育機関を卒業した生徒の一部は、以下に取り上げるカロライナ学堂、開城女学堂、樓氏女学校（すべて開設当時の名称）の中等課程へ進み、卒業後は多くの場合、女教師となって地方の初等教育機関に赴任した（この点については、以下、論じる）。

<表 6> 朝鮮における WFMS-S による女子教育の状況 (1929-1932)

地域	中等教育機関					初等教育機関				
	学校名	修業年限	教師数		生徒数	学校名	修業年限	教師数		生徒数
			宣教師	朝鮮人				宣教師	朝鮮人	
京城	培花女子高等普通学校	4	3	30	247	培花女子普通学校	6	-	-	463
						ディスクール	4	1	9	285
開城	好壽敦女子高等普通学校	4	3	14	391	好壽敦女子普通学校	6	1	12	592
						Mary Helm School	4	1	9	108
						ディスクール	4	1	29	965
元山	櫻氏女子高等普通学校	4	2	12	207	Francis Hitch School	6	1	6	222
						ディスクール	4	1	23	609
春川	-	-	-	-	-	ディスクール	4	1	44	1,315
鐵原	-	-	-	-	-	ディスクール	4	1	9	233
合計	生徒数 (845)					生徒数 (4,792)				

注：培花女子普通学校の教師は培花女子高等普通学校に含む（記載の区分がなかったため）。

出典：Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South, 1929-32.

(2) 女子中等教育

上記に叙述したように、WFMS-S が開いた女子中等学校は 3 校である。1937 年度現在（<表 4> 参照）、公立女子高等普通学校は 21 校（公立 11 校、私立 10 校）で、そのうち 7 校はキリスト教系で、その 3 校が WFMS-S による女子中等学校であった。この 3 校の設立年度、設立者（女性宣教師）、修業年限の変遷について、以下の<表 7>にまとめる。

<表 7> 朝鮮における WFMS-S による女子中等学校

学校名	開設年度	設立者	修業年限
カロライナ学堂 (Carolina Institute) ↓ 培花学堂 (1910 年) ↓ 培花女子高等普通学校 (1925 年)	1898	J. P. Campbell	初等科 (5 年) で開設 ↓ 1903 年に高等科 (2 年) 設置 ↓ 1912 年に 8 年 (初等科 5 年、高等科 3 年) ↓ 1916 年に 10 年 (初等科 6 年、高等科 4 年)
開城女学堂 ↓ 好壽敦学堂 (Holston Institute, 1908 年) ↓ 好壽敦女子高等普通学校 (1916 年)	1904	A. Carroll E. Wagner	初等科 (4 年) で開設 ↓ 1909 年に高等科 (3 年) 設置 ↓ 1910 年に 10 年 (初等科 6 年、高等科 4 年)
櫻氏女学校 (Lucy Cuninggim School) ↓ 櫻氏女子高等普通学校 (1925 年)	1903	A. Carroll M. Knowles	初等科 (5 年) で開設 ↓ 1913 年に 8 年 (初等科 5 年、高等科 3 年) ↓ 1918 年に 10 年 (初等科 6 年、高等科 4 年)

出典：Annual Report of the Woman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church, South, 1897-1909;
Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South, 1910-1937 より作成。

WFMS-S によって朝鮮で最初に開設されたカロライナ学堂は、1903年に高等科（2年）を設置し、1912年には高等科を3年制とし、1916年には修業年限10年の女子学校（初等科6年、高等科4年）へと発展した。開城女学堂（1904年開設）¹³や樓氏女学校（1903年開設）も1910年代には修業年限10年の名門私立女子学校となった。特に、開城女学堂は、他の2校より早い時期（1916年）



左側：開設当時、右側：1916年頃
好壽敦女子中高等学校（好壽敦百年史より）

に、好壽敦女子高等普通学校と好壽敦女子普通学校とに改組され、生徒数も最も多い。何より世界中に開設されたWFMS-Sの女子学校のうち、一番生徒数の多い学校としてその名声を得た¹⁴。

ここで最初に開設されたカロライナ学堂を中心に教科について見てみよう。開設当時（1898年）は、漢文、朝鮮語（読み書き）、算術、聖書、カテキズムが課されたが、1900年になると、家事・手芸が加わり、1901年からは家政学系の科目が、家事・手芸・裁縫・料理と細分化され、衛生や英語も追加して課された。英語試験に参観したコリアー牧師（C. T. Collyer）の話によると、生徒たちはマタイの福音書の一部を英語で暗唱したり、口頭試験として朝鮮語を英語に通訳したり、英語文章を朝鮮語に翻訳したりしたそうで¹⁵、相当高いレベルの英語教育が実施されていたと推測される。

1903年に地理も教え始められ、1907年頃は体育も新設された。次の引用から、朝鮮人女性にこうした教科（この資料の中では体育と算術）を教えることに対して、女性宣教師はどのような認識を持っていたかを知ることができる。特に、算術は精神的鍛練（論理的な思考力）を目指す教科として課されていたことがわかる。

ニコルス（L. Nichols）は手芸班の責任者であり、体育をも教えている。体育は中国のように朝鮮においても流行になっている。……従来、朝鮮における教育は暗記教育で……（教育を受けられる）女性たちの能力は全く無視されてきた。私たちの学校で算術を教えているが、これによって朝鮮女性は、将来に彼女らの人生の中で生じる問題を論理的に考え、分析し、解決するようになるだろう¹⁶。

カロライナ学堂の教科課程の学年編成に関しては、詳細が分からない。ここで、ほぼ同一の教育が行われていたと推測される好壽敦学堂高等科（1909年設置、修業年限3年）の教科課程について見てみよう。まず、全学年に朝鮮語、聖書、漢文、歴史、数学、英語、衛生、家政学系（家事・



培花女子高等普通学校 (1927年)
培花女子高等学校HPより

裁縫)、音楽、体育を課した。それに図画と地理を第1・2学年に、教育と理科を第2・3学年に、保育は第3学年にのみ、特別活動を第1学年にのみ課した。そして、朝鮮語、漢文、歴史、地理、衛生は朝鮮人教師が、聖書、英語、数学、体育、音楽、家政学系は女性宣教師が、図画は日本人女教師が担当した¹⁷。

この教科課程は、1911年に朝鮮総督府が制定した女子高等普通学校規則に定められた教科課程に類似している¹⁸。しかし、修身に代

わって聖書を教えたこと、歴史と地理がより重視されたこと、英語教育と師範教育が実施されたこと(第2学年に教育心理、第3学年に教授法と保育が導入された)など、ミッションスクールとしての独自の特徴も持っていた(女子高等普通学校師範科の場合、教育と保育という教科が編成された)。

こうしたWFMS-Sの女子教育に対して、女子生徒たちはいかに認識し、具体的にどのような影響をうけ、それがどのような行動につながっていたかを明らかにするのは、資料の制約もあるため難関である。それでも、生徒たちの感想や卒業後の進路を通して、WFMS-Sの女子教育が朝鮮人女性たちに及ぼした影響の一端を知ることができよう(生徒たちによる否定的な評価に関して、ここで用いる資料から明らかにすることは難しい)。

1910年当時、樓氏女学校に在籍していた生徒は、WFMS-Sに送った手紙の中で、「もらった奨学金で私は今までどんな勉強をしたか申します。まず、私の心を強くさせ、とても有益だった科目は聖書、地理、英語、算術で、次いで漢文、日本語、衛生、手芸、朝鮮語の読み書きでした。……私は授業があまりにも楽しいです。それをどう表せばよいかわからないほど喜んでます。これらの科目は私にとって有益だと思っていて、学校を卒業したら、主イエス・キリストの僕となり、その恵みに恩返ししたいと思っています」¹⁹と、科目を一つひとつ並べながら(手紙の中で科目の内容について具体的に述べられたわけではないが)、学びの喜びを表した。

このような生徒たちの喜びや教育・学校に対する評価・態度は、女性宣教師がアメリカの本部に報告した内容からも知ることができる。例えば、1901年に朝鮮に派遣され、キャロル(A. Carroll)とともに樓氏女学校を開設し、1905年まで初代校長を歴任したノウルズ(M. Knowles)は、次のように述べた。

私はこの何ヵ月間、寮で生徒たちと一緒に過ごしなが、自分の仕事を楽しんでいる。彼女らは学校が始まった時、本当に何も知らなかった。彼女らの母親や祖母たちも決して学

んだことのないものを学ぶのだから。彼女らにとって思想を理解することはとてつもなく難しい。しかし、彼女たちは従順でいつも熱心で学ぼうと最善を尽くしている。私は知っている。もし彼女たちがアメリカの女子学生と同じ環境の下にいれば、彼女たちの聡明さはアメリカの女子学生のそれと変わらないということを²⁰。

女子生徒たちが受けた影響は何かを直接的にあらわすのは、何より卒業後の進路であろう。WFMS-Sによる教育は、多くの女教師の輩出へと結ばれ、これらの女教師たちは地域のデイスクールや出身校の低学年の指導に励んだ。例えば、キャンベルはカロライナ学堂に修業年限2年の高等科を設置した翌年（1904年）に、「（卒業すると）一人は結婚するし、もう一人は元山へ行って樓氏女学校で働く。他のもう一人はこのカロライナ学堂に残って教える」²¹と報告した。このように中等教育を開始した初期から生徒たちは卒業後に女教師となった。WFMS-Sの女子学校は、特に地方の初等レベルの各種学校（キリスト教系のデイスクールなど）で教える女教師の供給源としての役割を果たした（この点は他の教派による女子学校にも同様にみられる）。この点について好壽教学堂のワグナー（E. Wagner、1904年に開設にかかわって以来、1926年まで校長などとして勤める）は、次のように述べた。

現在まで卒業生は18人である。この女性たちは喜んで教師として働いている。私たちは彼女らが国中に散らばってゆき、彼女らの姉妹である田舎の女性たちを向上させ、神の国がその地に建てられるように頑張っていると信じている。……教師として、妻として、主婦として、クリスチャン女性としてやっていることの報告を聞くと、私たちは満ち足り、私たちの心は感謝の気持ちや嬉しさでいっぱいになる²²。

3. 朝鮮における WFMS-S 女性宣教師

(1) アメリカにおける女子教育の発展と女性宣教師

ここでは、朝鮮における WFMS-S の女子教育にかかわった女性宣教師のプロフィール（出生年度、学歴など）を調査して、朝鮮における女子教育の普及は、アメリカにおける女子教育の発展といかに関係しているものかを論じる。

まず、朝鮮で WFMS-S による女子教育にかかわった女性宣教師（おおよそ27人）のうち、プロフィールの調査ができた15人をグループ化し、以下の〈表8〉にまとめる。このグループ化は、19世紀後半から20世紀初期にかけてアメリカにおける女子高等教育の形成と展開を分析したバーバラ・M・ソ■モンの研究を基にして行った²³。

第1グループは、1870年代から1880年代に中等教育を受けた女性宣教師たちである。アメリ

カにおいて19世紀前半にフィーメール・セミナリーやフィーメール・アカデミーを中心に女子中等教育が拡大した。こうした中等教育を受けた彼女たちは、1880年代末か、1890年代初期に宣教師となった。第2グループは、大体1870年代から1880年代に生まれ、1890年代から1900年代に急速に広がった女子高等教育を享受した人物たちである。彼女たちは1900年代から1910年代初期にかけ宣教師となって朝鮮に渡った。第3グループの女性宣教師は、おおよそ1890年代以降に生まれ、大学教育を受ける女性が急増する1910年代以降に大学を卒業したのち、1910年代末から1920年代に宣教師として朝鮮に派遣された。

27人のうち、12人の女性宣教師については、今のところ詳細なプロフィールが分からない。ただ、2人（M. Knowles・樓氏女学校校長、M. Johnstone・開城のメアリー・ヘルム・スクール校長）は第2グループに、他の10人²⁴は第3グループに属する。



J. P. Campbell
Microfilm Edition of the Mission
Biographical Reference files より



MISS AHRENA CARROLL,
Wesley, Korea.
A. Carroll
Microfilm Edition of the Mission
Biographical Reference files より

<表8>の第1グループの女性宣教師（2人、左側の写真）は、3校の女子学校（カロライナ学堂、開城女学堂、樓氏女学校）を開設した。特にカロライナ学堂の設立者であるキャンベルは長期間に校長として勤めた。

第2グループの女性宣教師（11人）は、第1グループの女性宣教師がはじめた女子学校を発展させた。樓氏女学校校長だったマイヤーズ（M. D.

Myers）は、17歳でゴードン学院（Gordon Institute, Barnesville, Ga, 1907年に Gordon College へ、現 Gordon State College）を卒業した²⁵。この学院には初等から大学課程まで開設されていたようで、彼女が修了した課程が何かは不明である。しかし、彼女はアメリカ南部メソジスト監督教会の宣教師養成学校（Scarritt Bible and Training School）に入学する（1906年度）以前、教師の経験があることから、中等課程以上の学歴を有するものと見なし、第2グループに入れた。

第3グループの女性宣教師（2人）は、1920年代に朝鮮に派遣され、英語、音楽などを担当した。第1グループと第2グループの女性宣教師たちは、WFMS-Sの女子学校を設立し、地域の名門私立女子学校としての確固たる地位を築こうと活躍したとすれば（例えば校舎の新築・増築、高等科設置、教科改正など）、第3グループの女性宣教師たちはWFMS-Sの女子学校が朝鮮総督府の認可を受けるに必要とされた教師（資格を持つ）として教育の充実化を図った。

要するに、WFMS-S女性宣教師の一部（第1グループ）は、19世紀前半にアメリカで広がった女子中等教育を受けた人で、残りの大多数（第2・3グループ）は、19世紀後半に普及しはじめ、20世紀初期に拡大されていった女子高等教育を受けたのち、朝鮮で女子教育を行った。第2

<表 8> 朝鮮で女子教育活動を行った WFMS-S の女性宣教師

グループ	名前	出生年度	学 歴	滞在期間	主な仕事
1	J. P. Campbell	1853	中等教育 (1870 年代)	1897-1920	カロライナ学堂校長
	A. Carroll	1870	バージニア州のウエスレヤン女学院 (中等学校) 卒業 (1880 年代)	1899-?	樓氏女学校・開城女学堂校長
2	M. D. Myers	1874	ジョージア州のゴードン学院卒業 (1891)	1906-1934	樓氏女学校校長
	H. Buie	1876	ミズーリ州の師範学校卒業 (1897)	1909-1940	樓氏女学校・培花学堂校長
	J. Hounshell	1876	バージニア州のワシントン大学卒業 (1896)	1902-1940	樓氏女学校校長
	C. Erwin	1880	テネシー州のランバス大学卒業 (1900 年代)	1905-1934	幼稚園・初等学校責任者
	L. Nichols	1881	ジョージア州のアンドリュウ大学卒業 (1901)	1906-1937	好壽敦学堂校長
	E. Wagner	1881	バージニア州のマリオン大学卒業 (1899)	1904-1940	開城女学堂・樓氏女学校校長
	I. Hankins	1882	ノース・カロライナ州の州立師範・産業大学卒業 (1903)	1911-1940	培花学堂教師
	C. U. Jackson	1883	ケンタッキー州のマーヴィン大学卒業 (1909)	1911-1940	樓氏女学校教師
	B. A. Smith	1885	ミズーリ州のミズーリバレー大学卒業 (1908)	1910-1940	培花学堂・樓氏女学校校長
	K. E. Cooper	1886	ジョージア州のウエスレヤン大学卒業 (1903)	1908-1940	聖書学校校長
	B.O. Oliver	1888	ジョージア州の大学短期課程修了 (1907)	1912-1940	樓氏女学校校長
3	C. Howard	1895	ジョージア州のアンドリュウ大学卒業 (1916)	1923-1941	好壽敦女高普教師
	N. Dyer	?	オクラホマ州のギャロウェイ大学卒業 (1925)	1927-1939	好壽敦女高普教師

注 1: 学歴は宣教師になる以前の最終学歴を示す。少なくない女性宣教師たちは宣教師になってからも他の専攻を目指して、再度、大学に入った、大学院に進んだりした。教育機関名が分からない場合は省略し、その現在名も省略。また、ほとんどの女性宣教師は派遣される前に宣教師養成学校を修了したが、その記載は省略。

注 2: 主な仕事としては、彼女たちが勤務した学校名 (最初に赴任した当時の名称) と職位 (校長か教師か) を示し、勤務期間は省略する。

出典: Microfilm Edition of the Mission Biographical Reference files, 1880s-1969, Archives & History, the United Methodist Church; 韓国基督教史研究所 HP (<http://www.1907revival.com/news/articleView.html?idxno=3336>)。)

グループの中には、教師の経験を積んだのちに宣教師となった人も何人かいる (例えば、K. E. Cooper, C. Howard)。

19 世紀末から 20 世紀初期にかけ高等教育を受けたアメリカ女性たちの多くは、教師や宣教師となった。それは、当時、大学出の女性たちの職業が限られていたからであり、19 世紀半ばからアメリカ女性による海外伝道運動が盛り上がるなか、とりわけ高学歴の女性たちが宣教師を志

望したからでもあった。つまり、アメリカにおける女子中等教育や女子高等教育の発展は、朝鮮をはじめ世界における女子教育の普及へとつながったが、そのような結実をもたらしたのは、19世紀のアメリカで浸透した女子教育論であり、それによって養成されたアメリカ女性たちの活躍である。

(2) 女子教育論

ここでは、WFMS-S 女性宣教師たちの女子教育に関する考えについて論じる。まず、1898年に漢城でカロライナ学堂を開設したキャンベルは、「私たちは女子生徒たちがクリスチャンホームを作るか、働くことを望んでいる」²⁶と言う。また、1904年に開城女学堂を開設したワグナーは、「私たちの教育目的は、女子生徒たちが人生のミッションを正しく遂行できるように準備させることである。すなわち、人たちを教え、進むべき道知らない人たちに真理をあらわすほかに、有能なホームメーカーになるように教えることである。従って、生徒たちは本で勉強するだけではなく、自分の服を作ったり修繕したりし、料理をし、部屋を整理整頓するのも習う」²⁷と言った。



E. Wagner
Microfilm Edition of the Mission
Biographical Reference files より

このように、女性宣教師たちは家庭や地域社会において新しい役割（ホームメーカーや教師）を果たす朝鮮女性を育てようとした。これらの朝鮮女性たちを地域で活躍する女性指導者として捉え、そのような女性の養成に女子教育の目的を置いたのだ。例えば、1911年から樓氏女学校に校長として勤めたブイ（H. Buie）は、「朝鮮で長く仕事をするにつれて私が気づくことはこのことだ。私たち宣教師が持つ特権の一つは、朝鮮人の中から今後の私たちの事業を行う指導者たちを養成することに力を貸しているという点である」²⁸と。

実際に、京城、開城、元山それぞれに建てられた女子中等学校を卒業した朝鮮女性たちは、教師となって地方のディスクールなどに派遣された。このことについて、1927年に朝鮮へ渡り、好壽敦女子高等普通学校に英語教師として勤めたダイアー（N. Dyer）は、次のように話す。

私たちは好壽敦女子高等普通学校を出る卒業生の一人を田舎の学校へ派遣した。その時、私は彼女に話した。あなたはただディスクールで教えるのではないと。あなたはクリスチャンを指導するのだと。……多くの好壽敦卒業生たちは田舎に入って行って、この女性と同様の仕事をやり遂げている。……私はこのような有能で素晴らしい奉仕者として女子生徒たちを育てるこの仕事を分担していることに大きな特権を感じている²⁹。

以上のような女性宣教師の女子教育に関する考えは、19世紀前半、アメリカで広がった女子中等教育の思想を継承したものとしてみることができる。アメリカで女子中等教育を開始し、その思想を社会に浸透させた女性の一人としてビーチャー（C. E. Beecher）を挙げることができる。彼女は、女性は中等教育を受けることで、夫の伴侶・子どもの教育者・家庭を切り盛りする主婦として、真にその役割を果たすことができるとし、また、女教師（社会における母性的な女性の役割）として社会に奉仕できるとみた³⁰。WFMS-S女性宣教師たちは、このような女子教育論により広がった女子中等教育はもとより、19世紀末から普及した女子高等教育の恩恵を享受した当事者として、朝鮮で女子教育を実施したのである。女子高等教育機関こそは開設しなかったが、1910年に朝鮮でアメリカ北部メソジスト監督教会の女性宣教師が女子高等教育（梨花学堂大学部、のちに梨花女子大学）を実施すると、それに協力した（女性宣教師一人を教授として派遣するなど）。そして卒業生の一部を梨花女子大学へ進学させたり、WFMS-Sが広島に開設した広島女学校保母師範科に留学させたりして³¹、女性リーダーを養成しようとしたのである。

おわりに

本研究では、朝鮮でアメリカ南部メソジスト監督教会の女性宣教師たちが行った女子教育の実相を明らかにした。とりわけ開城においてただ一つ存在した女子中等学校を開設し、初等教育の普及が遅れた江原道で初等教育を実施したことは特記に値する。

WFMS-S女性宣教師の大多数は19世紀末期に普及しはじめた女子高等教育を受けたものとして、自身が受けた女子教育の恩恵を朝鮮女性たちにももたらそうとした。彼女たちを通して、19世紀にアメリカで台頭した女子教育論が朝鮮にも伝播され、それによって多くの朝鮮女性たちはホームメーカーや女教師として養成された。こうした朝鮮女性は地方に送り出されてゆき、そこで自分が学んだものを広める活躍をした。

こうしたWFMS-S女性宣教師による女子教育活動の功績は、高く評価すべきであろう。今後、彼女たちを生み出した19世紀のアメリカにおける女子教育思想について、その思想がアメリカ女性海外伝道運動を通して朝鮮をはじめ世界に普及する過程について、検証を深めねばならない。

注

- 1 1910年度からWoman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, Southへと改称されたが、この論文ではWFMS-Sと記す。
- 2 WFMS-Sにより未婚の女性宣教師が派遣される以前、1896年からアメリカ南部メソジスト監督教会により朝鮮に宣教師（牧師とその妻）が派遣されており、牧師の妻たちも女性向けの活動を行っていた。
- 3 アメリカ北部メソジスト監督教会、アメリカ南部メソジスト監督教会、アメリカ北部長老派教会、アメリカ南部長老派教会、カナダ長老派教会、オーストラリア長老派教会。

- 4 李徳周『韓国監理教女宣教会の歴史—1897～1990—』キリスト教大韓監理教女宣教会全国連合会、1991年（韓国語）。
- 5 <https://catalog.gcah.org:8443/exist/publicarchives/gcahcat.xql?query=>を参照。
- 6 <https://catalog.gcah.org/publicdata/gcah4642.htm>を参照。Microfilm Edition of the Mission Biographical Reference files, 1880s-1969.
- 7 拙稿「朝鮮におけるカナダ女性宣教師と女子教育」筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類専攻『歴史人類』第49号、2021年、3-20頁；同「オーストラリア長老派教会朝鮮ミッションと女子教育」筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類専攻『歴史人類』第48号、2020年、70-92頁；同「戦前の東アジアにおけるアメリカ人女性による女子高等教育—アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会(WFMS)の活動を中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類専攻『歴史人類』第47号、2019年、54-74頁；同「朝鮮に渡ったアメリカ・プロテスタント女性宣教師—アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会を中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類専攻『歴史人類』第46号、2018年、103-126頁；同「朝鮮におけるアメリカ・プロテスタント宣教師による女子教育—米国南長老教会朝鮮ミッションを中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類専攻『歴史人類』第43号、2015年103-126頁などを参照。
- 8 同教派には海外女性伝道組織は結成されなかった。
- 9 木村光彦「韓国（朝鮮）における初等教育の普及—1911～1955年—」『アジア研究 = Asian studies』第34巻3号、1988年、73-91頁。
- 10 拙稿、前掲書（2019年）を参照。
- 11 メアリー・ヘルム・スクール（Mary Helm School）は、寡婦などの既婚女性のための初等教育機関として1907年に開城で開設された。
- 12 朝鮮総督府学務局『朝鮮諸学校一覽』1931年度。
- 13 WFMS-Sの年次報告書などによると、開城女学堂の開設年度は1904年である。しかし、好壽敦女子中高等学校は、1899年に開城に赴任したキャロル（A. Carroll）が一時的に女子児童を教えたことから、この年を創立年度にしている。好壽敦女子中高等学校『好壽敦百年史—1899～1999—』弘益電子出版、1999年を参照。
- 14 Mabel Katharine Howell, *Women and the Kingdom: Fifty Years of Kingdom Building by the Women of the Methodist Episcopal Church, South, 1878-1928*, Nashville, Tenn.: Cokesbury Press, 1928, p. 135.
- 15 C. T. Collyer, "Korea," *Woman's Missionary Advocate*, Jun. 1901, p.367.
- 16 J. B. Cobb, "Seoul, Korea," *Woman's Missionary Advocate*, Oct. 1907, p.154.
- 17 好壽敦女子中高等学校、前掲書、45-48頁。
- 18 修身、国語（日本語）、朝鮮語、漢文、歴史、地理、算術、理科、家事、習字、図画、裁縫、手芸、音楽、体操。
- 19 Kim Clio, "Wonsan, Korea," *Woman's Missionary Advocate*, Aug. 1910, p.68.
- 20 Mary Knowles, "Seoul, Korea," *Woman's Missionary Advocate*, Jan. 1905, p.253.
- 21 Josephine P. Campbell, "Carolina Institute," *Woman's Missionary Advocate*, May 1904, p.408.
- 22 Ellasue Wagner, "Holston Institute, Songdo," *The Missionary Voice*, Jan. 1915, p.27.
- 23 Barbara Miller Solomon, *In the Company of Educated Women: A History of Women and Higher Education in America*, New Haven and London: Yale University Press, 1985.
- 24 Annie J. Hanson, Velma H. Maynor, Rubie Lee, Ruth Diggs, Lillie M. Reed, Virginia Mae Turner, Evelyn Dacus, Alice Dean Noyes, Dye De Nichols, Alice McMakin.
- 25 Microfilm Edition of the Mission Biographical Reference files, 1467-5-7:07, the United Methodist Church,

Archives & History.

- 26 Josephine P. Campbell, *Ibid.*
- 27 Ellasue Wagner, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South*, 1911, p. 270.
- 28 Hallie Buie, "Lucy Cuninggim Girls' School," *Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South*, 1917, p. 220.
- 29 Nellie Dyer, "Evangelistic Work an Holston Institute, Songdo," *Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South*, 1931, p.234.
- 30 ビーチャーの女子教育思想に関しては、佐久間亜紀『アメリカ教師教育史—教職の女性化と専門職化の相克—』東京大学出版会、2017などを参照。
- 31 例えば、好壽敦学堂の校長であるワーグナーは、次のように報告した。「高等科を卒業する生徒たちの将来は明るい信じている。(翌年3月に卒業する)11人のうち、2人を幼稚園保育に、また2人を音楽教師になるよう教育を続けて受けさせたい。私たちはその何人かは卒業後にゲーンズ (N. B. Gaines) がいる日本の広島に送ろうと計画中である」Ellasue Wagner, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Council of the Methodist Episcopal Church, South*, 1912, p.66.